

しのばず自然観察会より 2026-9 2026.09.09

2026年10月の活動 不忍池定点観察 10月11日(日)



集 合:午前10時 不忍池 蓮池西南端
野外ステージ西側

(湯島天神下交差点寄り) 緑の小旗あり

今回は雨天中止

持 物:筆記用具、双眼鏡、飲み物、雨具、帽子
(マスク、敷物、昼食、日傘)

解 散:午後1時頃、ボート池テラスの予定

参加費不要 非会員の参加歓迎

徒歩 20 分程の園路を 1 時間半かけて歩きます。

初参加の方は、事前にメールで連絡を!

9月6日の定点観察は降雨のため中止しました。

2026年8月16日 不忍池定点観察より 小川千恵子

9:26 ボート池北側で

ひっくり返したボート型ブイの上にカルガモ1、筏上にはカルガモ7、ドバト9。筏の南側にカルガモ2、コサギ1。

カラスが動物園池の東と西で鳴き交わしている。東の方からカイツブリの鳴き声が響く。

そばの花は丈が伸びた。

トウモロコシ様の茎や葉の上にモシャモシャした花がついている。グーグルで調べるとモロコシ(別名タカキビ、ソルガム、コーリャン)と出た。コーリャンが一番ピンと来る名だが、実際の実は見ただけでも食べたことも無い。

黄色い花のカタバミ。シマスズメノヒエ。ボート池、南からカルガモ3羽が北へ行く。ピンクのユウゲショウが咲く。ヤマトシジミが飛ぶ。池の中の鉢のミソハギがピンクの花を咲かせている。フトイの先っぽに花(?)が付いている。

オッタチカタバミの黄色い花。例のナゾの葉群。ヘラオオバコ、シマスズメノヒエ。

タチアオイは実が多数つき、花も少し咲く。シロツメクサ。



そばの花



モロコシ

下草に雨粒が光る。コマツヨイグサ1輪咲く。メヒシバ、オヒシバ。

集合地 7名が参加。輪になって話していると、KOさんの帽子の正面すぐ右側に、セミが頭を上、尻を下にとまっているのに気づく。一瞬、バッチなのか？と思う。「セミがとまっている」と皆で言い出し、KOさんが帽子に手をやろうとした途端、右上後の方へ飛んで行った。言い出す前に写真を撮るべきだった！セミは大きくはなく、羽は透明だった気がするがー。

元看板があった所の黄色い花のカンナはみごと。蓮の花は、先月よりずっと多い。花の色も今年は濃い気がする。

野音西、ワルナスビ。シマサルスベリの木は、実を付け始めている。花も多い。エノコログサ、ユウゲショウ、ノゲシ、マメグンバイナズナ。オッタチカタバミ。

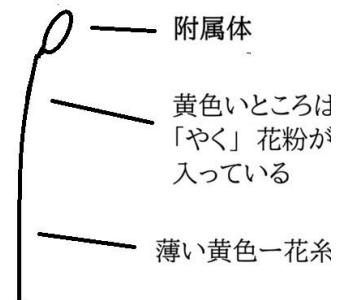
蓮 KOさんから。上向きに花が咲き、花びらが落ちて、雄しべが残ると、次第に花托は横向きになる。しばらくすると茶色になって、再び上向きになって、風で揺れてタネを遠くに飛ばそうとする。

野音の方からアーアーとカラスの声。

野音東側には、屋台も車も無い。広々としている。人が多い。特に外国人が多く、しきりに写真を撮っている。蓮の花も多くて、葉群の上に花が出ていて、目立つ。

メヒシバ、ヒメジオン、イヌビエ(食べられない)上野観光連盟と印刷された風鈴の水色の風受け板が蓮の葉の上ののっている。

浮き橋 シオカラトンボが飛び。緑がかった大型のトンボが飛び。Iさんは「つなぎトンボだった！」と。KOさんとIさんが蓮の実を食べた話をする。まだ実が緑色で横向きにたっている時



花の色が濃く枚数も多い

に中の実を取り出して、フライパンでいって、食べる、と。突然、カエル島の方からボーボーと野太い声がきこえる。ウシガエル、と察するが、まだ会ったことは無い。

KOさんから蓮の花の話の続きをきく。まん中のかたく(花托)の周りのギッシリ付いたオシベの1本は、図の通り。花が咲き始める1日目は花糸は短い、2日目にやくも花糸も伸びてやくから花粉が出る。ちょうど近くに咲いていた蓮の花をひっぱって、中を見て説明を受けていたが、花

の色がとても濃く、花びらも多いことに気づく。

KO さん、単えと八重の間のものを調べないといけなかな？と。不忍池の蓮は色んなものが混じっているから単一ではない、と。他の蓮を見ると、実のところに黄色い粒々の盛りあがりがあるのを発見。KO さん「虫が入っているかも」と。

したまちミュージアムそばで アベリアはハナツクバネウツギと言う、と KO さん。実を取って見せてくれて「何に似てる？」「羽付きのおいばね」実がおいばねに似ているから付いた名、と。

アベリアは、何年か前の観察会で「まぬけのアベマリア」と覚えると良いよ、と教わった。

アオサギが北へ飛ぶ。弁天堂の横あたりの木の上で西向きに立つ。タンポポ 1 輪。

KO さんが青い花のツユクサの苞を開いて、見せてくれて説明。

雌しべは中央の長い雄しべの間から 1 本だけ伸びている。ツユクサの花は目立つ青い花びら 2 枚の他にもう 1 枚あって、計 3 枚。3 枚の萼(がく)、そして役割が異なる 6 本の雄しべと 1 本の雌しべでできている。花びらは 3 枚だが、青色の色が付いたのは 2 枚。手にしたツユクサには花びらの根元に白い粒がひとつ付いている。(たいていは 3 粒ある) 7 という形の雌しべがあって、そこに上述の白い粒が伸びて花が咲く、と。そして、たいていは 3 回花が咲き替わる、と。ちょっと頭が付いて行かない。

とりあえず、花のつくりを、調べてみた。

・苞(ほう) 花の根元にある緑色の舟形(またはハート形)の葉。つぼみを包んで保護している

・花びら(花弁) 全部で 3 枚ある。上の 2 枚は大きく鮮やかな青色だが、一番下の 1 枚は小さく白色で透明に近いので、一見すると 2 枚しかないように見える。

・萼(がく) 薄い膜のような形をした 3 枚の小さな白い萼片がある

・雄しべ 全部で 6 本。長い雄しべ(2 本)、一番下に突き出っていて、花粉を出し、受粉する。中位の雄しべ(1 本)は中央にあり、花粉が少ない不完全な雄しべ。短い飾り雄しべ(3 本)は奥にあり、黄色い「π(パイ)字型」や「人字型」をする花粉が出ないフェイク(仮雄しべ)で、虫を呼び寄せる役割。

ヤマトシジミ。イトトンボが飛ぶと「アオモンイトトンボの雌」と I さん。

弁天堂入口手前の池の流入口からは水が流れこんでいる。カルガモが池のコンクリートのへりに 1 羽いる。黒っぽくて小さいねえと皆で話す。カワウも 1 羽いるが、お腹が白くて、小さいから幼鳥か、と。

参道 左右にサルスベリ。北、動物園側の方が花が多い。橋の北にはシオカラトンボ。橋の南側には雄と雌。雌は黄色っぽい。ムギワラトンボとも言う。雌が尾の先を水面にチョンチョンとつける。産卵？雄は雌に寄り添うように動き、離れることは無い。何とけなげ！

藤棚 サンゴジュの木にヘクソカズラがからまり花が咲く。南にある桜の木は、枝が折れて落ち、ジュズダマの上に倒れこんでいる。ジュズダマの実には黒く変わり始めている。ハゼランは赤い

実が付き始めている。藤棚の南側は、ワルナスビ、エノコログサ、ジュズダマが占める。

柿の実は、4～5cmになった。カヤは枝先に新芽(?)の明るい緑色の葉が付く。Iさん「実はいって食べられる」と。「実が緑から茶色に変わる頃に採って行って食べる」と。SAさん、SMさんがカヤの根元に出ている枝にセミの抜け殻が多数ある、と。カヤの高い枝の先にもあり、「こんな所にどうやって登ったんだろう?」と。

黄色い少し小さめの蝶が飛ぶ。Iさん「キタキチョウ」と。

橋手前、動物園池にシオカラトンボ。カワウは少ない。橋の南は蓮花が多数咲く。橋の上から水面を見てMさん「カダヤシ」と。「あの小さいのも、少し大きいのも皆カダヤシ?」と。KOさん「つかまえて、見なければわからない」と。

北上する。

ピンクのキョウチクトウは花がほとんど無い。病気?シモツケが咲く。

ボート事務所北、地面に茎が1本伸びて、ピンクの花が1輪咲く。葉っぱは無い。スマホで調べると、サフランモドキ(レインリリー)と出た。Iさんが調べ、「ナツズイセンは1本の茎に多数の花が付くが、これはひとつの花なのでサフランモドキ」と。☆

小さなジミな蝶2頭が飛ぶ。Iさん「イチモンジセセリ」と。そして「とまると羽は閉じるのに、開いている」と。

ハンゲショウ。ヤブガラシの花が咲く。

ボート池の水量が多い。

コサギが南から飛んで来て、ひっくり返したボート型ブイに降りる。ピンクの足こぎボートが近づいて来て、コサギは西の筏の上に移る。「カルガモ、9羽」とIさん。動物園の方からサルがケンカをしているけたたしい声と音がきこえる。時の鐘が鳴り始める。

池中の鉢のミソハギを、Iさん「子どもの頃はお盆花と言っていた」と。ミソハギにはハチやイチモンジセセリが来ている。KOさん、フイの先っぽに花、と。

雨が降り始める。急いで、いつものテラスへ。9月と10月の予定を決めて、解散。花、虫、鳥あわせをしようと思っていたのだが、一。

☆後日、SMさんからナツズイセンの写真が届いた(2021年に隅田川土手斜面で写したもの)。ヒガンバナのように、本当にいくつもの花がついている。SMさん、ありがとう。



サフランモドキ



イチモンジセセリ

しのばず自然観察会 事務局 〒110-0001 台東区谷中3-1-9 小川潔 方
1975年創立 電話 03-3828-8775 URL:<http://sinobazu.extrem.ne.jp>
郵便振替 00100-8-84609 しのばず自然観察会 年会費 2,000 円
E-mail: uenoyanesen25@yahoo.co.jp (at を@に替えて送信してください)

2025 年以前の会費未納の方も忘れなく! 退会の場合は早めにメールか葉書で